

真の生命科学

(原文は英語)

フーティアン・シュー (16 歳)

米国カリフォルニア州プレザントン市

アマドール・バレー高等学校

「生命とは何か」

この難問は、私の高校の生物学の先生が昨年出題した問題です。私たちは当時、教科書通りの回答のリストを与えられたので、それを試験のために覚えておけばよいとしか思っていませんでした。しかし、それから数カ月が過ぎて新型コロナウイルスのパンデミックが私たちに襲いかかり、世界が生と死の狭間に立たされた時、私の頭の中にその回答リストが浮かんで来て、内容を見直す必要を強く感じました。コロナは、生命の意味を単なる生物学の域を超えて掘り下げ、見出すという課題を、自宅にこもるようになった私に課したのです。

人生には、一人の人間を変えてしまう出来事が数多く存在します。私にとっては、コロナがそうです。

パンデミックが発生したことで、外の世界は劇的に変化しました。しかし、私の生活の大事な部分は、これまでと変わらず、落ち着いた生活を送ることができています。私の家族は、自宅にこもる生活を送りながらも、おいしい食事と温かい抱擁で、私をしっかりと支えてくれました。学校では、先生方が残業をして「Zoom」環境に対応してくださり、これまでと同じように有意義な学習体験を得られました。友人たちは、面白いメールやショートメッセージを送ってきては、私をいつも笑わせてくれました。私は、パンデミックが長期化するにつれて、日常生活の中で私を励まし、元気づけてくれるこうした人々すべてに対して、改めて感謝の気持ちを抱くようになりました。

生物学では「生命は、外部環境の絶えまない変化の中で内部環境のバランスを保つ」とあるが、実際には、「生命は、外界のあらゆる混乱とのバランスを保ってくれるもの全てを大切にする」のである。

コロナによる影響は依然として厳しい状況にあります。私が通う高校では、特に新 9 年生<訳注：高校 1 年生のこと>が大変な思いをしています。新 9 年生の友人の一人が、その苦勞を私に告白してくれました。ほとんどのクラスメイトが、Zoom を使用する際にカメラをオフにし、マイクを消音にしたままなので、新しい友だちをつくったり、授業に対するやる気を維持したりするのが非常に難しいそうです。他の生徒にも話を聞いてみると、その多くが同じ問題を抱えているとわかりました。私は、こうした状況を改善するために、上級生と下級生との間でメンタリングを行って新入生をサポートするクラブを立ち上げようと思いました。

生物学では「生命は、ある環境下での新たな刺激に迅速に反応する」とあるが、実際には、「生命は、問題を認識し、それに対して策を講じる」のである。

確かに、私は一人の10代の若者でしかありません。しかし、私は一人ではありません。多くの友人や同級生が私のクラブに次々に参加し、プロジェクトやワークショップのアイデアを何時間もかけて話し合いました。学校の先生やカウンセラー、運営関係者からも多くの方がクラブの立ち上げに手を貸してくれました。周囲の人たちからのこうしたサポートを受けて「AVMentors」は誕生しました。

「AV」は、私たちの学校の名前の略ですが、クラブが第一の目標に掲げている「助けること」を意味する「avail」という単語も表しています。一人の力だけでは大きな変化を起こすことはできないかもしれませんが、そのために、社会には多くの方が存在しているのです。皆が結束すれば、少しずつ変化を起こし、世界を変えることができます。

生物学では「生命は、多くの細胞から成り立つ」とあるが、実際には、「生命は、数多く集まることで強さとなり、支えとなる」のである。

AVMentorsの目的は、中学校と高校との隔たりをなくし、全学年を通じて生徒同士のつながりを強化し、全生徒にしっかりと学習支援を提供することにあります。クラブを立ち上げてからというもの、オンラインで生徒間の仲間意識を醸成すること、精神衛生とセルフケアを改善すること、アジア人を標的とする昨今のヘイトクライムに対応することに重点を置き、さまざまなイベントを開催してきました。昨年は、私の学区において200人を超える生徒と交流し、支援を提供しました。

生物学では「生命は、エネルギーを代謝し消費する」とあるが、実際には、「生命は、自分と周りの人々に活力を与え、何かに挑戦するエネルギーとやる気を生む」のである。

今年入会する新入生の数が増えるにつれて、上級生の活動に刺激を受け、来年度の9年生のためにメンターになりたいという生徒も増えてきています。私たちは今、より多くの生徒たちを支援するために、国内の他の学校にも活動の場を広げています。上級生が卒業し、新入生が入会するという終わりのないサイクルにより、AVMentorsがこれからも全生徒の情熱と優しさに支えられて存続していくことを、私たちは確信しています。

生物学では「生命は、特性とDNAを次の世代に伝えていく」とあるが、実際には、「優しさこそが生命のDNAであり、その優しさという恩を次に送ることを学習していくのが生命」なのである。